

朝日嶽信仰 金輪寺・大圓寺・平圓寺はどこにあったか!?

金輪寺跡について

●15 年ほど前に『朝日町史 上巻』が出版される情報を聞いて私もすぐに購入した。その中に朝日岳信仰という節があるが、これがとても興味深い。鎌倉時代北条執権時頼により千年封じされているはずだが、800 年頃～1500 年頃まで「大谷」に朝日三十三坊と呼ばれる宗教集落があって、金輪寺・大圓寺・平圓寺の三つの坊が朝日岳での修行の先達をしていたとある。



大朝日岳・写真/岩澤正平氏

町史の著者は、これらの坊があった「大谷」が、朝日町の大谷と考えるのは多少の問題ありと書いているが、私はもちろん、自信を持って朝日町の大谷で間違いないと思っている。理由は、上流に朝日岳修験の拠点「大沼」があり、祭祀族の菅原道真の側室一党が太宰府左遷時に移り住んだ地であること。徳川時代は天領。大朝日岳が見える位置であること。さらに大谷は祭祀線が蜘蛛の巣状態であること。

そこでこの三社がどこにあったかを祭祀線で割り出してみることにした。実は紙地図でコンパスを回していた時から 1 ヶ所たくさんの線が交わる場所を見つけていて、6 年前に地図ソフトで確認して「朝日嶽金輪寺」と題して紹介したことがあった。今回はそれをもっと正確に調べ直し、さらには大圓寺と平圓寺の位置も探し出してみようと思う。まずは下記の町史にある『朝日嶽縁起』を読んでいただきたい。

■ 朝日町史「朝日岳信仰」

川西町上小松にある真言宗大円寺に『朝日嶽縁起』は朝日岳信仰の内容が文章化されている。朝日嶽三所権現の縁起をのべ、三社が大富・女躰・子守の各権現で、本地仏はそれぞれ弁才天・大日如来・正観音であるとする。文末の古老の伝承はともかく、弘仁年間（810～824）に教旻という僧侶が、朝日山麓の大谷に来往して、朝日岳金輪寺を建立し、周辺には朝日三十三坊と呼ばれる宗教集落が成立したという記録は検討されなければならない。

この縁起を書いた行賢は、大円寺の世代記によると、中興開基から数えて十四代に当たり、永禄二年（1559）12 月に没したと記されている。同寺にある他の記録によると、先祖は大谷の金輪寺住僧で、朝日岳三社権現の別当職を勤めていた。ところが永正年中（1504～21）に金輪寺が坊舎も含めて焼失し、再建居住が困難のため、天文年中（1532～55）行賢が上小松村の亀森天神別当の院跡へ移ったという。

朝日岳権現の祭礼は、古くは 7・8 月に行なっていたが、麓大谷の居住を離れたため例年の八月はできなくなり、10 年に一度の登山を行い、三社権現の祭礼は八月一日から七日まで亀森山の社中で勤仕している旨を記している。

この文書には「朝日嶽三社大富・女躰・子守権現、従往古堂社無之霊地二候」と書いて、別当寺金輪寺はあるものの朝日岳三社は、社殿を持たなかったとしている。

大谷の地が問題になる。朝日町の大谷と考えたいが、多少の問題はあるだろう。現在の白鷹町・長井市・小国町・飯豊町・川西町に大谷の地名を探してみたが、小字にも見当たらないのである。永正年間に消失したと伝える金輪寺と朝日三十坊とされる朝日岳信仰のひとつが大谷であったと考え、もとの大谷

集落跡も含めて今後の検討課題としたい。

-大円寺の観音経裏面の書き込み-

朝日先達 坊中 本坊 金輪寺 大圓寺 平圓寺

朝日岳金輪寺のほか、大円寺・平圓寺の2ヶ寺があり、それぞれが先達の坊を支配して一つの宗教集落を形づくっていたように思われる。

●まずは先に見つけていた金輪寺跡の祭祀線をもう一度調べ直して紹介しよう。つながる祭祀線はたくさんあって探しきれないので、基本的に大朝日岳山頂と大沼、そして大谷で最も古い神社で御朱印神社にもなっていた白山神社、日月神社、そして大谷天満宮とのつながりを調べてみる。そして、その地が三社のうちのどうして金輪寺であると確定できるかについては、あとで書くことにする。

なお、祭祀線が多いので、証明するための Km とともに切り抜いた地図のカットは、興味深いところだけとさせていただきます。ぜひ円形地図サイトを使用してお自分で確かめていただきたい。

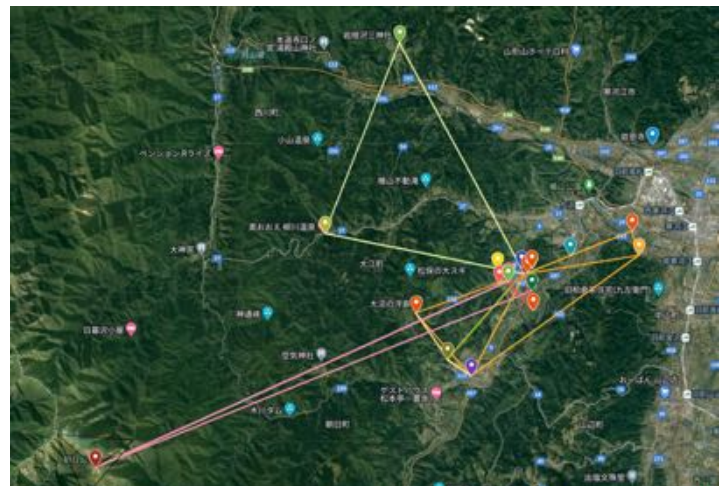
使用地図

「Google Maps に好きな半径の円を描けます」

<https://www.cloudremix.net/Map-Circle/>

※地図上に円の半径を記入してマーカーをクリック

すると、円が描かれる。



●まずは大谷村内から三つの三角形



■金輪寺跡 ←←← 0.907km ←←← 白山神社跡 →→→ 0.907km →→→ 薬師堂

■大谷天満宮（西野天満宮）←←← 1.430km ←←← 金輪寺跡 →→→ 1.430km →→→ 北野天満宮

■金輪寺跡 ←←← 1.925km ←←← 日月神社 →→→ 1.925km →→→ 若宮八幡神社跡

■朝日嶽 金輪寺

大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、弘仁年間（810～824）教旻が建立。周辺に大圓寺、平圓寺、朝日三十坊など宗教集落として成立していた。大沼浮島とともに朝日嶽信仰の一大拠点。朝日嶽先達とともに金峯山、熊野、高野山などにも引率、参詣する修行僧衆だった。しかし、天文年間（1504～21）坊社ともに焼失。山形県朝日町大谷

■白山神社

祭神 菊理姫命 伊邪那岐命 伊邪那美命 与茂津言解之男命

境内社 稲荷社 末社 日月社（船渡）

例祭 七月十七日

大谷の白山神社は承和七年（840）、加賀の国（石川県）の白山大権現より勧請し、天喜年中（一〇五三～一〇五七）に源頼義が武運長久を祈願したと伝わる。昔からいくさの神として領主の崇敬厚く、特に寒河江の大江氏や山形城主の最上氏より十九石四斗余の社領を寄進され、さらに慶安二年（一六四九）徳川三代将軍家光より、石高同じく、朱印状（徳川将軍が朱印を押して発行した公文書）をもって安堵されたのである。

宝永四年（一七〇七）近郷九か村（大谷、大暮山、川通、栗木沢、船渡、左中、粧坂、中沢、富沢）の総鎮守として、各村々から寄進を受け、白山神社を再建した記録が残っている。

江戸時代、白山神社の西側朱印地に寺を建て白山寺と称し、真言宗寒河江惣持寺の末寺となったが、天保時代（一八三〇～一八四三）に廃寺となり、跡地は畑になったといわれている。この場所に明治十二年（一八七九）大谷小学校が初めて建設されたのである。

明治七年官令により村内の御朱印社であった天満宮、八幡神社、愛宕神社、北野天神社、若宮八幡神社、二渡宮、日光神社を白山神社に合祀。

もとの白山神社は、旧大谷小学校の東側にあり、境内は広く、モミの木や杉、かえで、桜などの大木が茂り、千百年余の間、氏神として親しまれてきたのであった。しかし、終戦後、昭和二十一年（一九四六）五月、進駐軍（GHQ）より、大谷小学校と隣接する白山神社を教育施設より切り離すよう命令され、止むなく社殿を解体、恩賜郷倉（非常時の米倉）に一時保管。昭和二十五年（一九五〇）八月三十日、現在地に茅葺き屋根を銅板葺に変え昔のままの立派な社殿を再建したのである。当日深夜、松明の先導で別当南蔵院（小野家）より新殿に遷宮したと伝えられている。

跡地には、新制の大谷中学校が建設され、今も残るヒバの木は、白山神社本殿跡に植えられた記念樹である。

西村山郡朝日町大谷 738-1

■薬師堂 創建不詳

■大谷天満宮（西野天神）

石高 24石6斗4升 天満宮・熊野宮

境内 2509 坪、本社 3.5×6 間、拝殿 2.5 間、末社祭神 9 座（何れも 1 間 4 面/風神宮、雷神宮、火雷神宮、十六万八千眷属宮、大黒明神社、稻荷社、荒神新山権現、宮主社）、神楽殿 9 尺四方、仁王門 2×3.5 間、花表 9 尺 神主/白田下記 神主屋敷 2900 坪、お玉屋 1 間 4 面、行事殿 2.5 間 4 面、書院 3.5×7 間、居宅 6×17 間、門 9 尺×3 間
（文政 7 年（1824）大谷村明細書上帖より）

※文久 3 年 3 月晦日（1863）仁王門、境内社一つを残し全焼。再建不能。後年仁王門は永林寺に移転。
境内社は大江町柳川の熊野神社本殿に使用。

■北野天満宮 創建不詳

大谷地区には、西野天満宮、北野天満宮、高木天満宮、峯壇天満宮の四つの天神様があり、古くから村人の崇拝を受けてきました。白田内記家・外記家は、菅原道真の子孫であるといわれ、そのため代々天神信仰が厚く、大谷の四天神は白田一族と関わりのある人が建立したといわれています。西の天満宮（大谷天満宮）は白山神社と合祀されました。 ※『大谷郷』より抜粋 西村山郡朝日町大谷

■若宮八幡宮

創建不詳。最上家親が寒河江城主であった慶長 9 年（1604）、堀（保利）内匠に与えた安堵状などからみて、400 年以上も前と推測されています。最上家改易後、引き続き徳川将軍より二石九斗六升のご朱印状を受けています。

江戸時代には 180 坪の境内をもち、本社、拝殿ともに 10.5 坪、稻荷社、鳥居などもあったという記録があります。現在は保利家の庭園内に記念の小祠が建てられています。※『大谷郷』より抜粋

■秋葉山山頂・秋葉神社跡

秋葉山山頂には、延享 4 年（1747）鈴木清助家創建の秋葉神社がある。 西村山郡朝日町大谷





- 大沼浮島出島 ←←← 5.945km ←←← 金輪寺跡 →→→ 5.945km →→→ 豊龍神社
- →→→ 5.945km →→→ 朝日大龍神社
- →→→ 5.945km →→→ 平塩熊野神社
- →→→ 5.935km →→→ 春日神社

■大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路にきた折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。天平 11 年（739）行基が訪れ浮島の数 66 を日本国の数にたとえ国名を付けた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。



山形県西村山郡朝日町大沼

自由に動く浮島（手前）と動かない出島（奥）

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。しかも波を立てずに動く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」

記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天(瀬織津姫)から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福や連れてきた海童たち秦族も蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「弁天島(出島)」(写真)が起点となっている。

大沼浮島は、全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫(瀬織津姫)が祀られているのも本来はこの分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるとと思われる。

■豊龍神社

承和11年(844)に延暦寺の僧安慧(あんえ・円仁の弟子)が奥州を巡り歩いて、講場をその地に開いた時、龍の神霊を祀って東五百川の鎮守として、別当「東守寺」を建立したと記されている。さらに慶長年間(1596～1615)に寒河江肥前の守が社殿を再建し、明治維新の廃仏毀釈によって豊龍神社となり、東守寺住職は復職して豊嶋氏を称したとする。

明和年間(1764～72)に左沢在住の松山藩医であった羽柴玄倫が誌した『宗古録』には、安慧がこの地に天台の教えを広める決意をしたとき「瑞巖美麗の姫大神」があらわれ「我こそ海童神(わだつみのかみ)の娘なり」と名のり「汝の護法善神とならん」と誓ってくれたのが豊玉姫大神であるという。

さらに、安慧みずから大般若経600巻を書写して筐(はこ)に納め、この山上に埋めたと述べ、山号を「宝経といい或は宝筐と作る」と書いている。

山形県西村山郡朝日町宮宿



■平塩熊野神社

社伝によれば、養老5年(721年)行基により熊野三社を勧請して開山し、行基の高弟勝覚が別当として補佐したという。前九年の役に当たり、源頼義・義家が戦勝を祈願し、康平5年(1061年)田畑・山林と鏡二面を寄進した。また応徳3年(1086年)後三年の役の時再建されたという。

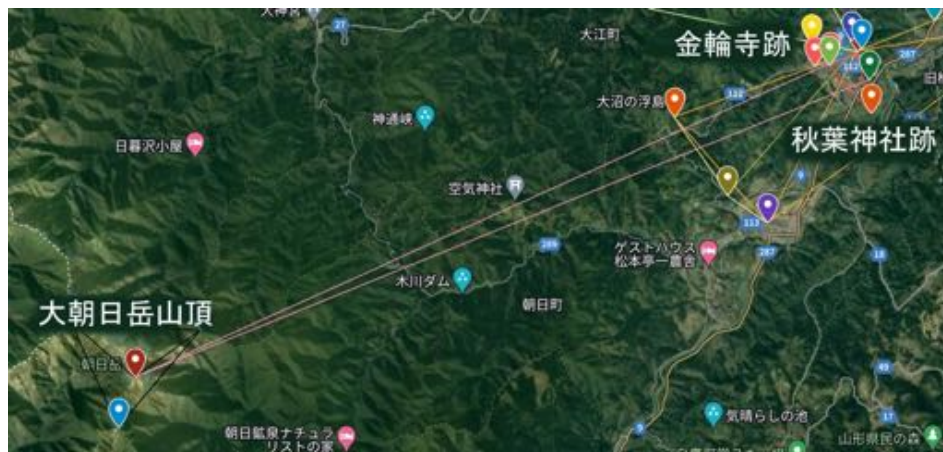
平安時代境内地に経塚が築かれ、出土した石製八角柱形石鐘から康治年間(1142年～1143年)のものだと判明している。文治5年(1189年)寒河江荘の地頭となった大江氏(寒河江氏)から社領を与えられ、寒河江大江氏の譜代の家臣であった長崎中山氏の保護を受けた。中山氏は最上川流域の開墾によって7000石と称する地域を有し、平塩熊野神社を祈願所として定め、北目(山辺町北垣)・高屋(寒河江市高屋)・伏熊(大江町三郷)に平塩熊野神社の分社をおいて郷の鎮守とした。元々は熊野三所権現にならい、護摩堂・内御堂・如法堂に分かれていたが、明応年間(1492年～1501年)に現在地に合祀された。大江氏が滅ぶと中山氏は最上氏に属し、平塩熊野神社も最上氏の保護を受け、最上氏改易後は幕府より149石余の御朱印地を与えられた。

山形県寒河江市平塩1



■朝日大龍神社

祭神/大日靈貴尊 鎮座は明治 25 年 10 月 17 日に地元住民の桶屋職、柏倉良作氏により安鎮された。口伝によれば、俗称桶屋良作という者の夢枕に大神様が現れ「我は、朝日岳より流れ来た朝日大龍神である。我が身は今、最上川背の上（此の木橋下流）」の処に流れ着いた。我を此の金谷の里の良き処に祀れ、そうすれば万民の悩みも解消し皆を守り導く」とのお告げにより、良作は、有り難き大神のお告げの通り、その河岸に恐る恐る行ってみると不思議にも、ご神体が現れた。良作は、正夢とはこのことかと有り難く思い、現在の此の地に龍神様のご神体を祀り、後に良作は修行を重ねつつ祈祷師となり、良作宝印として万民の祈祷に当たり、村内外に広い崇敬を得て社殿を建立し今日に至っている。山形県寒河江市柴橋金谷 2 6 8



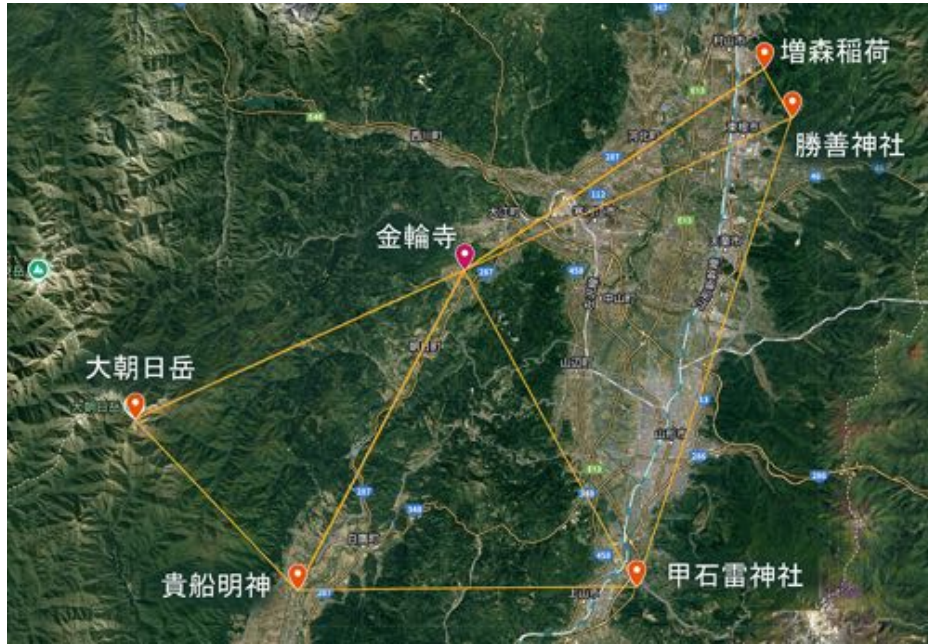
■金輪寺跡 ←←← 24.29km ←←← 大朝日岳山頂 →→→ 24.29km →→→ 秋葉神社跡（山頂）

■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

●三処とは、大朝日岳（大富）と、ほぼ同距離に位置する・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。朝日と付く地名は、出雲族が昇る太陽を遥拝した場所に付けられたとされる。





■大朝日岳 ←←← 24.272km ←←← 金輪寺跡 →→→ 24.272km →→→増森稲荷
 →→→ 24.272km →→→勝善神社
 →→→ 24.272km →→→甲石雷神社
 →→→ 24.272km →→→貴船明神

■増森稲荷

詳細不明 村山市

■勝善神社

詳細不明 勝善神は蒼前神・馬力神とも呼ばれ、仏教系の馬頭観音と同じで神道系の呼び方をいいます。栃木・茨城県から東北地方に及ぶ信仰圏を持っています。東根市東根

■甲石雷神社

詳細不明 上山市金谷字甲石 463 番地の 2

■貴船明神

白兎深沢にある貴船神社は社地 東西 19 間 南北 18 間 8 分 面積 8 畝 21 歩 水波売命を祀ったものです。祭日は 7 月 18 日、木で作った船が奉納され、水上交通、橋などの神、子どもの寝小便の神様ともいわれています。明治 40 年葉山神社に合祀されました。社殿はそのまま、神地の参道右側に庚申塔や青面金剛の塔があることから、昔から庚申講がさかんに行われたと思われます。長井市白兎 9 7 5

●貴船明神と金輪寺を結ぶラインが最上川や国道 287 号に沿っているのが興味深い。



■ 岩根沢三神社 ←←← 24.29km ←←← 柳川 熊野神社 →→→ 24.29km →→→ 金輪寺跡

■ 岩根沢三神社

月山神社・出羽神社・湯殿山神社摂社(旧日月寺)

岩根沢三神社の由来は、嘉禄二年(1226 年)大和の国より、行脚に来ていた僧が岩根沢に投宿中発心し一字を建立、役の行者の威力も加わり月山に道を切り開きその後、参詣の行者が増加し、さらに嘉慶元年(1387 年)大寺を建立しその後、上野東叡山輪王寺直轄末寺として寺号を日月寺と称し天台宗派属し、住職は代々東叡山より任ぜられた。その後寛文七年(1667 年)延享元年(1744 年)と天保十二年(1841 年)に再建されました。しかし、いかに岩根沢三神社といえども度重なる火災で、経済面では決して豊かではなく、玄関の造営は、十七年も後の安政五年に行っています。

又、台所にある大賄部屋の八角柱には等身大の大国・恵比寿の木像が安置されています。

明治二年の神仏分離令時に日月寺号返上、平成十二年国重要文化財に指定されました。

祭神/月読命(月山) 稲倉命(出羽) 大己貴命、少彦名命、大山紙命(湯殿山)

山形県西村山郡西川町大字岩根沢字上ノ平九十四番地

■ 熊野神社

祭神 伊邪那岐尊 伊邪那美尊

承平年中(921~938)青柳村に優姿塞宝泉という者があり、紀伊熊野大神を崇敬し遠路参詣すること二十一回、年老いて血気衰え参詣できず、少し仮寝の間大神が夢の中に「汝精誠である。二世の懇願速やかになるだろう」と勅宣があり、宝泉夢から覚めて感涙し、日を重ねて郷里に帰り朝夕の謹行怠らずいる時、夢のように幻のように空中に声があり「迺乃沢大里の辺必ず瑞がある」との神勅があつて、宝泉が直ちに行くと石の上に紀州熊野の宝印及び柳葉一葉があつた。宝泉は、これは熊野権現の影向であると社を建てこれを祭鎮した。天徳年中



(951～957) 当国守護修理大夫当社に祈願するに感応著明であった。

別当定宝院・大宝院で支配し代々修行を以て奉仕し、大江氏・最上氏の崇敬厚く二十石三斗四升の社領を寄進し、徳川氏も元の如く朱印を以て寄進した。享保四年（1719）社殿を再建、**明治二年の火災で類焼し大谷村天満神社の神殿を護り受け再建し**、明治四年熊野大権現を熊野神社と改め、明治七年村社となり、昭和三十二年に本殿を移築し拝殿を新築した。

西村山郡大江町柳川 1592



■ 金輪寺跡 ←←←26.949km ←←←湯殿山御神体岩 →→→ 26.949km →→→ 二渡観音

■湯殿山神社

祭神/大山祇神 大己貴命 少彦名命

湯殿山神社は、山形県庄内地方にひろがる出羽三山（月山・羽黒山・湯殿山）のうちの、湯殿山の中腹にある。湯殿山は月山に連なるものであり、湯殿山神社は、月山から尾根を西に8km下りた地点にあり、また、月山より流れる梵字川沿いにある。古来から修験道を中心とした山岳信仰の場として、現在も多くの修験者、参拝者を集めている。湯殿山神社は、本殿や社殿がない点に大きな特徴があるが、もともと湯殿山は山岳信仰の対象であり、山自体に神が鎮まるものとして、人工的な信仰の場をつくることは禁じられてきたという。明治以前、三山において神仏習合の信仰が盛んだったころ、羽黒山は観音菩薩（現在）、月山は阿弥陀如来（過去）、そして、当時三山のうちに含まれていた葉山や薬師岳は薬師如来（未来）とされた。一方、湯殿山は「三山」というよりもそれらを超えた別格のものとして、大日如来とされていた。こうして、出羽三山においては、観音菩薩・阿弥陀如来・薬師如来の導きにより現在・過去・未来の三関を乗り越え、大日如来の境地に至って、即身成仏を達成するという「三関三渡」の修行が行われることとなった。この修行においては、裸足で御神体（湯殿山）に登拝することが、大日如来と一体になる行為とされ、非常に尊ばれた。山形県鶴岡市田麦俣字六十里山 7

■二渡観音

二渡観音は応永2年(1395)に建てられた町内でも古い観音堂で。堂内の縁起書によれば「白田内記家の先祖が月山参りの途中、白髪老人に逢い『私は二渡りの神なり、郷里に帰り二渡の社を建て信心すれば必ずや村を守るであらう』というお告げがあったので社を建て自ら別当となった。」とあります。徳川將軍より二石六斗のご朱印状を受け、格式ある神仏として崇拝されてきました。※『大谷郷』より抜粋
朝日町大谷



平安京大極殿と金輪寺

●そして平安京大極殿。大極殿の中心の位置に円周線を乗せてみた。まさかと思われるが、奈良も京都も、常に大朝日岳や大沼から神気を取り込む形で都が作られている。詳しくは各時代の祭祀線をご覧ください。



■ 平安京大極殿 ←← 542.346km ←← 金輪寺跡 ←← 542.346km ←← 明王院不動寺(京都)
■ // ←← 542.346km ←← 常德寺(京都)

■平安京大極殿

桓武天皇は延暦3年(784年)に平城京から長岡京を造営して遷都したが、これは天武天皇系の政権を支えてきた貴族や寺院の勢力が集まる大和国から脱して、新たな天智天皇系の都を造る意図があったといわれる。しかしそれから僅か9年後の延暦12年(793年)の1月、和気清麻呂の建議もあり、桓武天皇は再遷都を宣言する。場所は、長岡京の北東10km、二つの川に挟まれた山背国北部の葛野郡および愛宕郡の地であった。事前に桓武天皇は現在の京都市東山区にある將軍塚から見渡し、都に相応しいか否か確かめたと云われている。日本紀略には「葛野の地は山や川が麗しく四方の国の人が集まるのに交通

や水運の便が良いところだ」という桓武天皇の勅語が残っている。延暦 13 年（794 年）10 月 22 日に桓武天皇は新京に遷り、翌 11 月 8 日には山背国を山城国に改名すると詔を下した。明徳 3 年（1392 年）の南北朝の合一以後は、土御門東洞院殿が正式の皇居となって明治 2 年（1869 年）、明治天皇の東京行幸時まで存続した。「大極殿」の名は、万物の根源、天空の中心を意味する「太極」に由来する。すなわち、帝王が世界を支配する中心こそ「大極殿」の意である。

京都市上京区小山町千本丸太町交差点



■明王院不動寺

平安京遷都の前 103 年（691 年）、今から約 1320 年前創建の寺である。空海作「石像不動明王」が本尊。

平安京造営時（794 年）、桓武天皇は王城鎮護のため平安京の東西南北に四つの磐座（石倉）を定めたが、明王院はその一つで、「南岩倉」と称したと伝えられている。天暦年間（947～957 年）の賀茂川氾濫による堂舎流没や、応仁の乱で荒廃し、石像も塵芥の中に埋もれてしまった。天正年間（1573～1592 年）豊臣秀吉は、聚楽第造営に際して苔むした本尊不動明王を得て靈験を感じ、旧知に堂舎を建立してこれを再び奉安したという。太平洋戦争末期京都にも空襲が来ると言われて、本尊を本堂下の磐座に避難させた。それから約 70 年やっと元の厨子に安置し、2012 年 11 月 24・5 日、牛若丸・弁慶の旧「五条大路」活性化の一環としてご開帳を盛大に執行した。

京都府京都市下京区石不動之町



■常徳寺

常徳寺（じょうとくじ）は、山号を知足山という。寺伝によれば、平安時代に創建された知足院(ちそくいん)を前身とするという。常盤御前が安産祈願に地蔵菩薩(常盤地蔵)を参詣したという。

日蓮宗、本尊は十界曼荼羅。

平安時代、918 年以前、船岡山南西(紫野雲林院付近とも)に知足院が建立される。天台宗で、不動明王像、如意輪像、釈迦像の三尊を本尊とした。（「西宮記」「枕草子」）1155 年、第 76 代・近衛天皇が亡くなり船岡山・西野で火葬にされ、遺骨が一時、当院・不動堂に安置された。後に、安楽寿院に改葬される。1156 年以後、保元の乱で関白・藤原忠実が次男・頼長を支援したため、後白河法皇(第 77 代)の怒りを買って当院に隠棲した。この頃、寺運隆盛を誇り、境内周辺には、女房播磨堂、不動堂、丈六堂など複数の伽藍が建ち並んでいた。1162 年、忠実はこの地で没した。中世(鎌倉時代・室町時代)、知足院は廃絶したとみられる。

京都市東山区大黒町通五条下る袋町 300



ここが金輪寺である理由

●では、どうしてこの場所が大圓寺や平圓寺ではなく金輪寺と決めつけられるのか？

大円寺に伝わる「羽州置賜郡朝日嶽大富権現來由縁起」の冒頭部分には、

「それ朝日嶽大富権現鎮座の濫觴は、大山祇靈神の本地は弁才天なり。昔大山祇の神、甘雨神変を施す。是れ朝日初顕の神なり。年代は知らず。女躰権現は木花咲耶姫命なり。時に、白鵬年間に役行者修観の砌、此山に登る。忽に独りの神女四雪の駒に乗り、化現して行者に告げて曰く、吾れこの山に住すること年久し。吾れ是れ女躰権現なり。まさに末世の衆生を済度せんとす。告げおわって尊像凝って石となる。四雪の駒、白雲に乗って虚空に去る。行は、神靈を女躰権現と崇む。本地は大日如来なり。また曰く、下野国二光山男躰権現の神后にして朝日姫の垂迹なり。（以下省略）」

という一節がある。朝日岳の神は女躰権現（木花咲耶姫命・大日如来・朝日姫）であり、二光山男躰権現の神后とのこと。金輪寺を開いた僧教旻が、空海と親しい日光（二光）男体山開祖の勝道上人の弟子であり、この場所は大谷日光山の麓であり、日光山神社跡地の直ぐ前であること。これから紹介するが他の二候補地の真ん中に位置することなどが挙げられる。

金輪寺は大朝日岳を象徴として女躰権現（木花咲耶姫命・大日如来・朝日姫）が祀られていたということではないだろうか。

ぜひ朝日町教育委員会の発掘調査をお願いしたい。

大圓寺跡地について

●大圓寺と平圓寺にはどちらかに弁財天（初顕神は大山祇神）、どちらかに子守権現（正観音で大山祇神の娘溝織姫命）を祀っており、小朝日岳と西朝日岳を象徴としているのだと思う。単純に考えると小朝日岳の小は子守権現の「子」だとすれば、小朝日岳が子守権現（正観音で大山祇神の娘溝織姫命）かもしれない。大朝日岳は日本の山ではめずらしく大を「おお」と呼ぶ。ほとんどの山は「だい」と呼ぶらしい。すると西朝日岳は弁財天（初顕神は大山祇神）だろうか。

さて、大圓寺と平圓寺らしき場所はわかったが、どちらがどちらかはわからない。「大」と「平」にはどんな意味があるのだろうか。圓（円）や輪はコンパスの意味に思えてしまう。

まずは村内から。



- 白山神社跡 ←← 1.052km ←← 大圓寺跡 ←← 1.052km ←← 二渡観音（大谷）
- 大谷天満宮跡 ←← 1.531km ←← 大圓寺跡 ←← 1.531km ←← 二渡神社（栗木沢）
- 大谷天満宮跡 ←← 1.538km ←← 大圓寺跡 ←← 1.538km ←← 日月神社

■二渡神社（栗木沢）

河川舟行の守護神として祀られたのだらうと考えられています。地区民にとっては風邪の神やとりしゃぶき（百日咳）の神としても信仰されています。町内で二番目に古いとされる享保7年の「繫馬図」があります。

※『大谷郷』より抜粋





■浮嶋稲荷神社（大沼） ←← 6.071km ←← 大圓寺跡 ←← 6.071km ←← 熊野神社（春日沼）

■熊野神社 不詳



■大朝日岳山頂 ←← 16.541km ←← 大圓寺跡 ←← 16.541km ←← 庭渡大明神（白鷹町）

■庭渡大明神

詳細不明。下山には熊野大権現と二渡神社があり、地区を主体として毎年8月14日祭を行っている。二社交互から獅子を出して、渡行のコースも変えているのだと云う。白鷹町下山

●神楽殿のような建物と、隣には古そうな稲荷神社もあった。小さいが古そうな神社に思った。隠されていたが御神体は岩かもしれない。

●驚いた。二渡観音、二渡神社、そして庭渡大明神と3ヶ所の二渡神とつ



なだった。最上川縁にあるので舟運のためと考えられているが後付けなのかもしれない。日本の神様辞典によると、素性は不明だが天水分神などが祀られ水神と関係あるのではと書いてある。天水分神は瀬織津姫か。

ということで、主要な大朝日岳や主要な神社と1mも変わらずつながっているのも、ここに社寺があったことは確かである。

昭和新田遺跡

●この大圓寺跡地のすぐ南側では縄文時代から中世まで続いたとされる昭和新田遺跡が発掘されている。須恵器や土師器、そして青磁も出土しており、身分の高い豪族の存在も考えられている。そして、町史には「集落域より東へ50m離れたところに四基の土坑群が検出されている。周囲には住居跡は確認されておらず、祭祀的な意味合いの可能性がある。」と書かれてあった。これは大圓寺の山門の柱跡ではないだろうか。きっと、山門をくぐり、小川にかかる橋を越えて聖域に入る構造だったのだと想像される。円形の出っ張りもわざと小川の流れをそのようにデザインしたように思える。調査報告書をネットで見つけられたが、残念ながらその土坑についてどのような配置だったかの図録はなかった。ぜひ大圓寺跡の発掘を期待している。



平圓寺跡について

●さて、最後の平圓寺については、地形的に現在の薬師堂がそうだったのではないかと考えついた。ここが平圓寺なら、三社がほぼ等間隔で一列に並ぶ。大朝日岳も望める。これまで、ほとんど調べていなかった薬師堂の祭祀線を探してみた。



- 平圓寺跡←← 1.008km ←← 八幡神社 →→ 1.008km →→ 北野天満宮
■平圓寺跡←← 907m ←← 白山神社 →→ 907m →→ 金輪寺
■永林寺←← 1.305km ←← 平圓寺跡→→ 1.305km →→ 秋葉神社跡
■平圓寺跡←← 4.045km ←← 長傳寺 →→ 4.045km →→ 大谷天満宮
■平圓寺跡←← 9.583km ←← 大沼 →→ 9.583km →→ 大谷天満宮

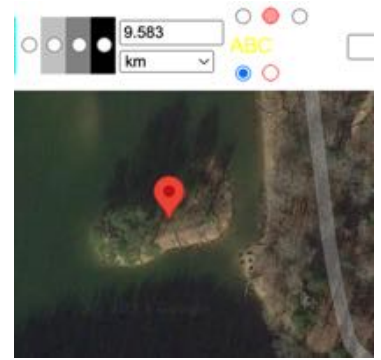
■長傳寺 詳細不明

●長傳寺を訪ねてみると充分神気を感じた。池の島には石が祀られ、観音様らしきお堂もあり、狛犬の彫り物は実に生命感にあふれていた。



■大沼の中島（西川町沼山）

1559 年（永禄 2 年）、寒河江の大江氏領内に構えた法泉寺四世の「全忠」という禅僧が、戦乱の世を憂い、この地に訪れ近くの「長沼」の湖畔で休息し、さらにつづら折りの山道を登り「大沼」に足を運んだ、すると突然、静かな湖面を泳ぐ竜の背中に乗った美しい女神が現れ、周囲をまばゆく照らした、その荘厳な光景を見た全忠禅師は、水神の化身と悟り、ふもとに「大沼山・龍源寺」と称する寺院を創建した。寺院の他にも大沼湖畔の一角にも「龍神」を祭る祠を立て、仏神両面から水神信仰を深めたという。



1596 年（慶長元年）のある夜、寒河江の柴橋村雨池に住む菊池藤五郎という豪族の夢枕に、その女神が現れ、「大沼」の竜に対し、山辺の畑谷沼に住む大蛇が敵意をもって、山越えしては大沼を荒し回っている、汝の力で退治してくれるならば、沼の水は永久に保たれるであろうと告げて消えた…翌朝、藤五郎は、弓矢を携えて大沼へ向かった、すると、暗雲たなびく湖水で、竜と大蛇がねじり合い、すさまじい水しぶきを上げて争っていた、藤五郎は、とっさに岸边から大蛇の目を狙い、矢を放つと的中し、おびたらしい血が湖面を赤く染めて大蛇は死んだ、竜は喜びを表し、幾度も天空に昇っては舞い降り、やがて湖水深く消えた、以来、女神が約束した通り、大沼は常に豊かなわき水で満たされ、水利に恵まれた村人は、山間地でも耕作地を広げることができ、暮らしが潤ったという。



●祭祀線をたどって沼の島にぶつかったのも、すぐにチェックを入れた。なにしろここは、大谷の祭祀族の白田家（菅原家）からの移住が認められる集落である。実際に見に行くと浮島の大沼と同じくらいの島だった、島に向かいお堂も建っていた。これが伝説にある竜を祀った祠だろうか。やはりこの島は聖地だった。

おそらく島は、すべて弁財天なのだと思う。きっと大沼をリスペクトして島は作られたのではないだろうか。岬になっている場所の根本部分を掘って切り離せば簡単に島を作ることができる。神社仏閣の境内になにげに島のある池が作られるのも同じことなのだろう。



ただ、伝説に基づけば金輪寺が焼失してからの祭祀線ということになる。金輪寺はなくなっても平圓寺は薬師堂として残っていたのだろうか。もしかしたら伝説以前にあの島はすでに作られていたのではないだろうか。

それにしても、ここはややこしい。実は手前にもう一つ「長沼」という大沼よりも小さな島があるのだが、その湖畔に大沼神社があるのだ。この神社には大谷天満宮の祭祀線が繋がっている。龍神伝説は大沼が舞台なのにどうして長沼に祀られたのが謎だ。「湖畔に祠」という伝説はこの大沼神社のことなら、もともと長沼の伝説だったのではないだろうか。



■平圓寺跡 ←← 24.255km ←← 大朝日岳山頂 →→ 24.255km →→ 稲荷神社（秋葉山）



■稲荷神社（秋葉神社） 詳細不明

●山頂の秋葉神社本殿跡より 30m ほど手前の一段下がった所に稲荷神社の石堂がある。昔は秋葉山のことを稲荷山と呼んでいたらしいので、こちらの方が古いのだろう。



●まとめ

以上、金輪寺・大圓寺・平圓寺の跡地を割り出してみた。日光山の麓に三つ並んだ寺がイメージできる。ただ、現在の薬師堂が平圓寺だという確証は何もなく、ただ単に薬師堂としての祭祀線なのかもしれない。裏付けとなる古文書類が発見されることや、発掘調査されることを心から期待している。今後、また気になるポイントが見えてきたら紹介することにして今回の推察はこれでひとまず終わりとする。



長いレポートを読んでいただきありがとうございました。記/竜天太陽

(2023年10月記)

●2025.4 追記: ふと思いついたのは、手前の鳥原山が三所の一つではないだろうか。大谷から朝日岳を見ると、左に鳥原山、真ん中に大朝日岳、右側に小朝日岳と並んでいる。西朝日岳は大朝日岳の次に高い山だが裏側になり大谷からは見えない。平という字は、なだらかな鳥原山のことをさしているのかもしれない。そう考えると、三社の配置もその通り、朝日岳に向かって左側に平圓寺、真ん中に金輪寺、右側に大圓寺ではないか。鳥原山に明治10年に再興された朝日嶽神社を起点にすると大朝日岳山頂との距離が小朝日岳と同じだった。朝日嶽神社の元の場所がわかっていて建てられたのかもしれない。

■鳥原山 靈山朝日嶽神社 ←← 2.46km ←← 大朝日岳山頂 →→ 2.46km →→ 小朝日岳山頂



●2025.6 月追記 2: 重要なことに気づいた。天気の良い日に金輪寺跡、大圓寺跡、平圓寺跡から朝日岳を改めてよく眺めてみたら、大圓寺跡地から見える山は中岳と西朝日岳だった。手前の山が邪魔をして大朝日岳も小朝日岳も鳥原山も見えなかった。社殿を持たない出雲系の遥拝神社なので見えなければ始まらない。ここは別の場所だったかと愕然としてしまった。だが…



大圓寺跡（推定）から見た朝日岳

山の高さを確認して驚いた。大朝日岳が 1870m。中岳は 1812m。西朝日岳は 1814m。小朝日岳は 1647m。大朝日岳の次に高く立派だと思っていた小朝日岳はまったく低かった…。ということは、朝日岳三山は大朝日岳、西朝日岳、中岳といえる。考えてみると中岳は竜蛇族（出雲族）のナーガ岳とも読める。

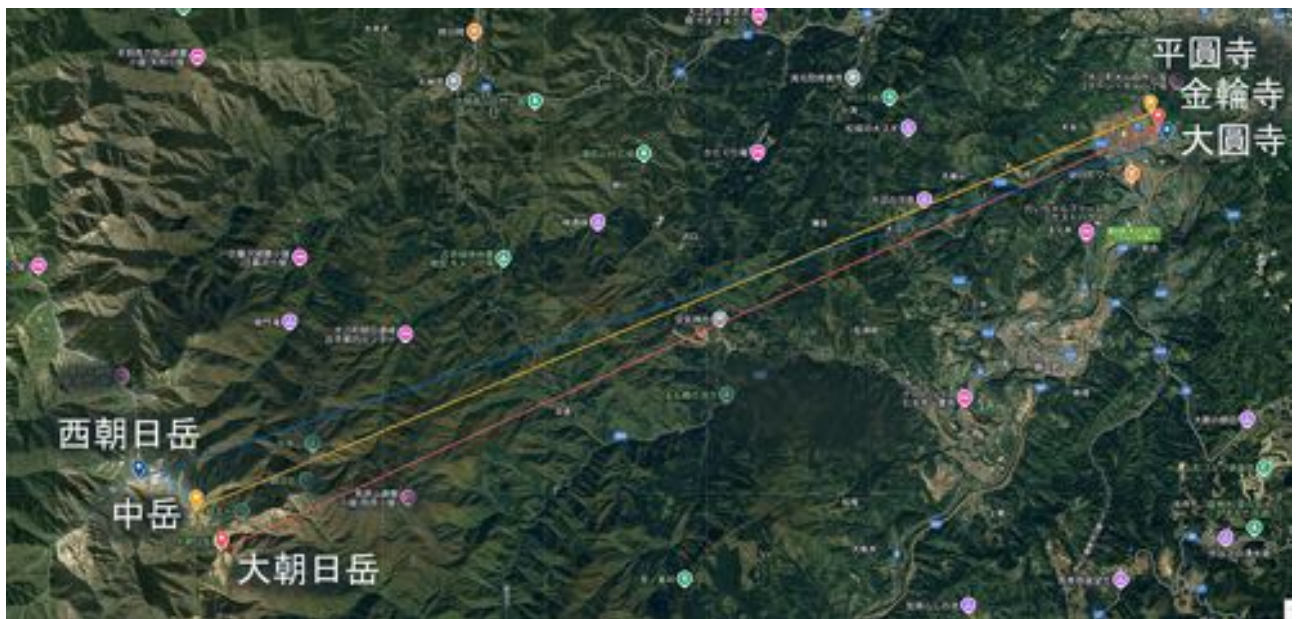


平圓寺跡（推定・現薬師堂）から見た朝日岳



金輪寺跡から見た朝日岳

●平圓寺跡（推定・現薬師堂）から見た朝日岳は全体が見える。初めに創られた金輪寺がこの地にふさわしいようにも思えるが、祭祀線の多くは真ん中の金輪寺跡推定地につながるので間違いはないはず。そして大圓寺は一番西朝日岳が見える位置にある。



朝日岳三山の遙拝ライン



●ということで、朝日岳三山は大朝日岳・中岳・西朝日岳であり、真ん中にある金輪寺は大朝日岳（女躰権現・大日如来）を、北側の薬師堂跡にある平圓寺は中岳（子守権現・正観音）を、南の粧坂地区にある大圓寺は西朝日岳（大富権現・弁財天）を遙拝していたことがわかった。

※ただし北側の薬師堂跡を大圓寺、南の粧坂地区の位置を平圓寺としているが根拠はない。逆かもしれない。